

## 日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGG 分科会（第 25 期・第 5 回）議事要旨

1 日時 令和 5(2023) 年 9 月 19 日（火） 13:30~15:40

2 方法 遠隔会議（Zoom）

3 出席者

（会員）佐竹健治、中村卓司

（連携会員）東 久美子、中田節也、日比谷紀之、古屋正人、久家慶子

（特任連携会員）辻村真貴

4 議題

前回議事録を確認した。

### （1） IUGG 総会の報告（資料 1）

資料 1 にそって、東分科会委員長から IUGG 総会の報告があった。

IUGG 総会が、2023 年 7 月 11 日～20 日にドイツ・ベルリンで開催された。参加者は 105 か国から 5020 人で、日本からは 279 人が参加した。5034 件の発表申し込みがあり、620 の口頭発表セッション、166 のポスター発表セッションがあった。IUGG 分科会から推薦した仲田典弘氏 (IASPEI) が Early Career Science Award を、谷口真人氏 (IAHS) が Fellow を受賞した。別途推薦されていた IUGG 分科会委員の日比谷紀之氏も Fellow を受賞した。仲田典弘氏の受賞記念講演が 7 月 16 日に行われた。IUGG Gold Medal は、フランスの Valérie Masson-Delmotte 氏が受賞し、7 月 15 日に受賞記念講演を行った。

会期中に IUGG 評議会が 3 回開催され、日本の代表として東分科会委員長が出席した。評議会では、役員選挙、予算案の紹介と承認、レゾリューション発出、2027 年に開催される次期 IUGG 総会の開催地にかかる投票等が行われた。次期開催地は韓国の仁川（インチョン）に決定した。1995 年の IUGG 総会（Boulder）で決定された負担金年 3.3% 増額に従って、2024 年の日本の負担予定額は \$49100 になった。

### （2） IUGG 分科会の各小委員会の活動報告（資料 2）

IACS、IAG、IAGA、IAHS、IAMAS、IAPSO、IASPEI、IAVCEI の順に、資料 2 に基づき、各小委員会の活動報告があった。IAMAS については、中村（尚）委員欠席のため、資料の読み上げを行った。

### （3） 学術会議の動向（資料 3）

佐竹委員より、学術会議の委員会等の数の多さ、ならびに委員数が多い委員会等の存在が学術会議の問題の一つになっていることから、資料 3 の「分野別委員会に附置される分科会等のあり方の見直しについて」（2023 年 7 月幹事会）に従って、小委員会を含む分科会等の

見直しを行うことが説明された。これにより、学術会議が拠出金を支払っている分科会（IUGG 分科会を含む）は継続的に設置することになった一方、地球惑星科学では、地球惑星科学委員会の委員数の多さと地球惑星科学国際連携分科会下の多数の小委員会の存在が問題になっている。

中村（卓）委員からは、「未来の学術振興構想」に関する進展状況が紹介された。

#### （４）IYBSSD の動向（資料４）

佐竹委員から、IYBSSD は 2023 年末で終了し、その後継として、資料４の IDSSD（2024 年から 10 年間）が国連で決議されたことが報告された。これに対応して、学術会議でも連絡会議を立ち上げる予定であることが紹介された。

#### （５）カーボンニュートラルに関する連絡会議の動向

担当する中村（尚）委員欠席のため、本議題について情報提供や議論はなかった。

#### （６）第 26 期 IUGG 分科会への申し送り事項

日本人の論文の引用を増やすこと、IUGG 関連の各種賞に日本人を推薦すること、IUGG 関連役員に日本人を推薦することを、第 26 期 IUGG 分科会への申し送り事項にすることにした。また、これまでの代表者派遣の履歴を第 26 期 IUGG 分科会に引き継ぐことも確認した。

#### （７）第 26 期 IUGG 分科会の体制

第 26 期 IUGG 分科会の設立は既に認められており、委員申請を佐竹委員が行うことを確認した。

### 5 配布資料

資料 1：IUGG 総会の報告

資料 2：IUGG 分科会の小委員会の活動報

資料 3：日本学術会議第 26 期の体制

資料 4：IDSSD について

参考資料 1：規約改正案

参考資料 2：IUGG 予算案